

ひだまり通信 No.14

2012・2月



菜々.遊んでいると学校へ遅刻しちゃうよ!
早く行こう。 さつき

暦の上では春...どこかに春の息吹きが感じられるでしょうか。桜のつぼみがほんの少しふくらんできました。もみじの新芽が赤く見えてきました。それから、愛犬菜々の毛替わりが始まりました。辺りは銀世界、白一色です。今年は平成に入ってから一番の豪雪でしょう。村中には、除雪の際の雪置き場の山が、いくつもできています。山間部では3m、4mの積雪で、雪かきに追われています。

平成4年に、父から清耕園を受け継いでから、20年が経ちました。地域の農業を継承しながら、お米の産地直送やメロンの生産等、新しい分野にも取り組み、夢我夢中で走って参りました。この間、多くの方々に見守り支えられ、数えきれない程お世話になりました。皆様から、教え導いて頂き、清耕園は、今年成入式を迎えることができました。バより御礼申し上げます。



3月 種もみの温湯消毒のスタートです。



4月初め。「氷の花」
「お母さん、きれいなものを見せてあげるよ。あのね、登校する時、寒い暗れた日にしか見られないんだよ。」
「今日はあるかなあー？」期待しながら、娘についていくと、「あった、あった。ほりきれい！あごくきれい！」



4月、例年通り、種まきが始まりました。



800枚の苗が並ぶハウスです。



5月、大切に育めた箱入り^{あまめ}苗のお嫁入り。「お母さんよろしくお願ひします。」
「はい、まかせておきない。」お母さんは、はりきっています。ほとんどの兼業農家の皆さんは、入手のあるゴールデンウィークに田植えをします。農園も苗の出荷に大忙しです。



田んぼの土手にけなげに咲く忘れな草。



苗を差したお青年は、研修生の篤君。農業が大好きな篤君は、夢をたくさん語ってくれました。やる気のある、はつらつとした青年は、私達に元気をいっぱいくれました。新潟の農業を担う青年に、エールを贈ります。頑張れ、篤君!!



今日は、植え直しのお手伝い。昨日の運動会を頑張ったこと、いっぱい話したね。



種をまいてから20日ほどで、畑に定植します。



梅雨の季節に合わせて、畦に芝の苗を植えます。環境保全と草刈り作業の軽減につながります。



稲の苗の出荷が終わると、メロンの基肥になる堆肥をまきます。環境に優しく、化学肥料を使わないように心がけています。



根ついた苗は、力強く株を大きくします。



7月 村のぎおん祭。子供達へのごほうびは、祭りの後の会食です。メニューは子供達のリクエスト。今回は、冷し中華に、果物、お菓子、花火つきです。



可愛いメロンがなりました。



メロンの育苗



10日を待たず、本葉が顔を出したら1本ずつ、育苗ポットに移植します。



梅雨明けです。暑いよ〜。毛皮のコート、脱がしてちょうだい。



赤い色したヒメジオン。

種まきは、溝の深さも種の向きもそろえます。



7月下旬から8月初旬にかけては、稲が穂を出す、とても大切な時期です。早朝から、お父さんは、田んぼに水をあてて、良い実りになるように、1日中、田んぼを見回ります。



稲の花が咲きました。

村の盆踊り大会
20年ぶりに、村の若者達が復活してくれました。夜台も出て、ビールはもちろん、焼き鳥、やきとうもろこし、わたあめにかき水、景品付きのわなげなど、盛りだくさん。大人から子供まで、お盆の夜を楽しみました。若いかに脱帽。感謝！感謝！ありがとうございました。



県認証減農薬減化学肥料栽培米の現地確認が、地元JA・農業共済、県の職員の皆さんにより実施されました。稲の様子に加え、精米室の状況、在庫のお米の数が台帳に偽りなく記載されているか等々、食の安全を守り、消費される方々の信頼を損なうことのないようにチェックします。



8月下旬、稲穂が色づいてきました。



9月、メロンの収穫です。昨年は、昼夜の温度差があり、甘くて香りのよいメロンに仕上がりました。



稲刈りスタート。抱きかかえた稲の束は、穂が長くて重い。籾がたくさん付いています。どうやら豊作のようです。



「^{さん}又^い三^国一」という名前の甘い柿です。稲刈りのおやつにひとついただきます。

